

第1章 図書館基本情報

本章では、調査対象の自治体及び図書館中心館に関する基本情報について調査結果をまとめる。
 本調査においては、組織上の中心館を「本館（中央図書館）」、資料の収集や保存等について中心的役割を担っている図書館を「中心館」と定義して調査を実施した。

1 自治体に関する基本情報

本項では、調査対象とした図書館を設置している自治体の区分、人口規模、自治体が運営している公立図書館数、図書館予算、図書館運営について整理する。

(1) 自治体区分及び人口規模

今回調査した自治体の区分及び人口規模は以下のとおりである。

自治体区分では「市」が 55.3% (759 館) と最も多く、「町村」が 38.2% (524 館) と続く。(図 1.1)

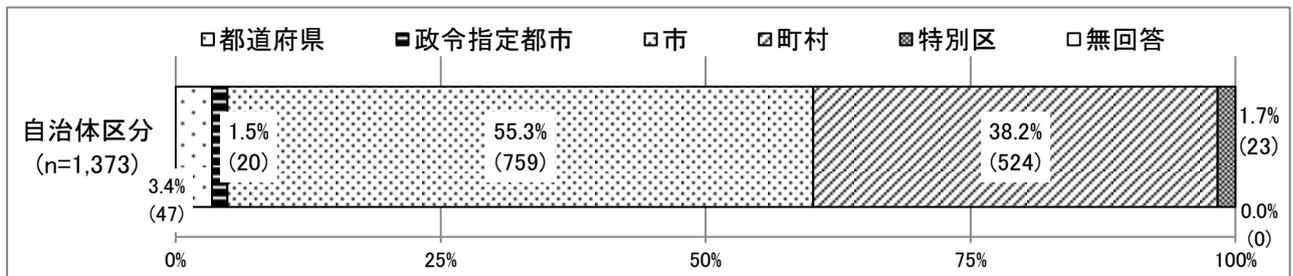


図 1.1 自治体区分

人口規模は、都道府県では、「100 万人以上 150 万人未満」が 27.7% (13 館) と最も多かった。市区町村では、「1 万 5 千人以上 4 万人未満」が 29.2% (387 館) と最も多く、次いで「4 万人以上 10 万人未満」が 26.4% (350 館) だった。(図 1.2)

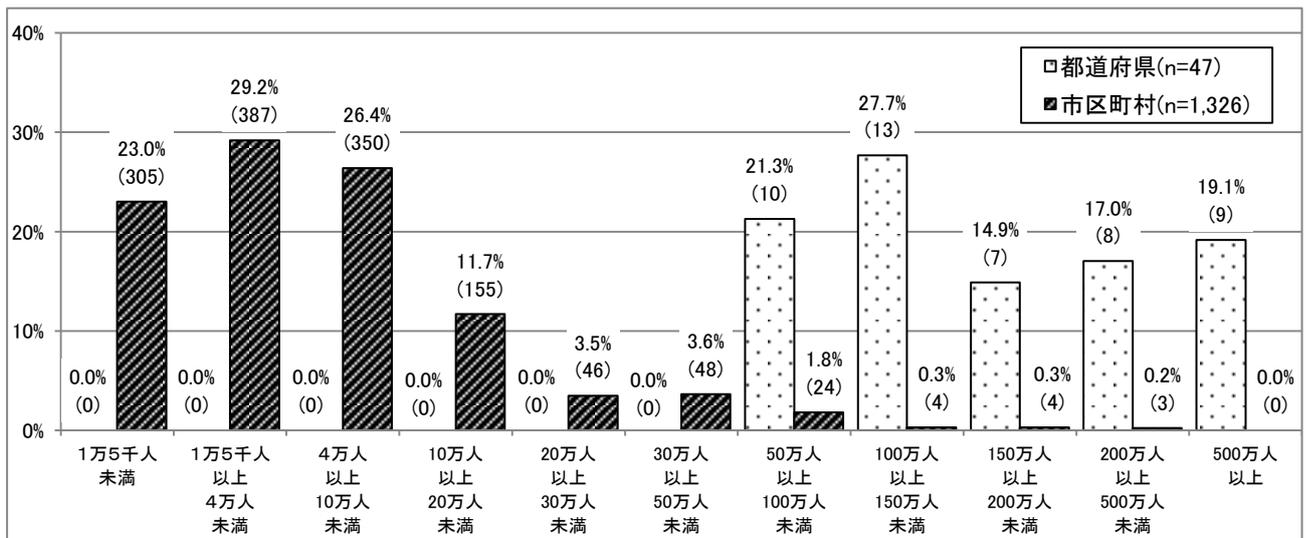


図 1.2 自治体人口規模

(2) 自治体が運営している公立図書館数

自治体が運営している公立図書館数を尋ねた。(図 1.3)

「1館」が最も多く、都道府県では80.9% (38館)、市区町村では56.6% (751館)だった。次いで「2館」が都道府県では17.0% (8館)、市区町村では15.0% (199館)だった。

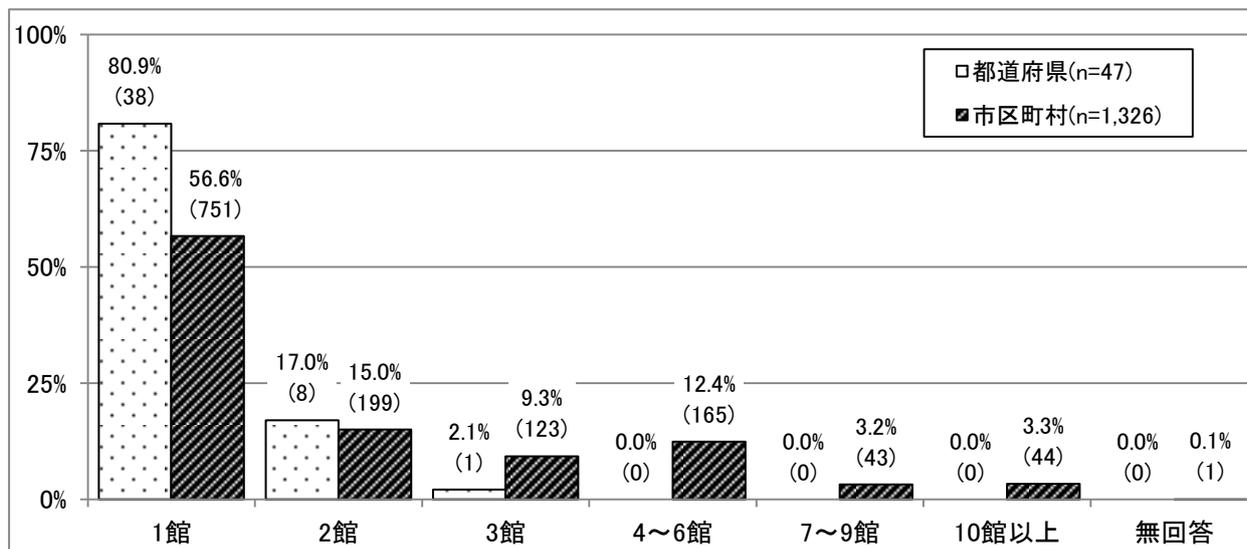


図 1.3 自治体が運営している公立図書館数

(3) 図書館予算

ア 予算管理

自治体内の図書館の予算管理をどのように行っているか尋ねた。(図 1.4)

都道府県、市区町村ともに「自治体内全図書館の予算を1館で一括管理している」の割合が高く、それぞれ85.1% (40館)、78.0% (1,034館)を占めた。

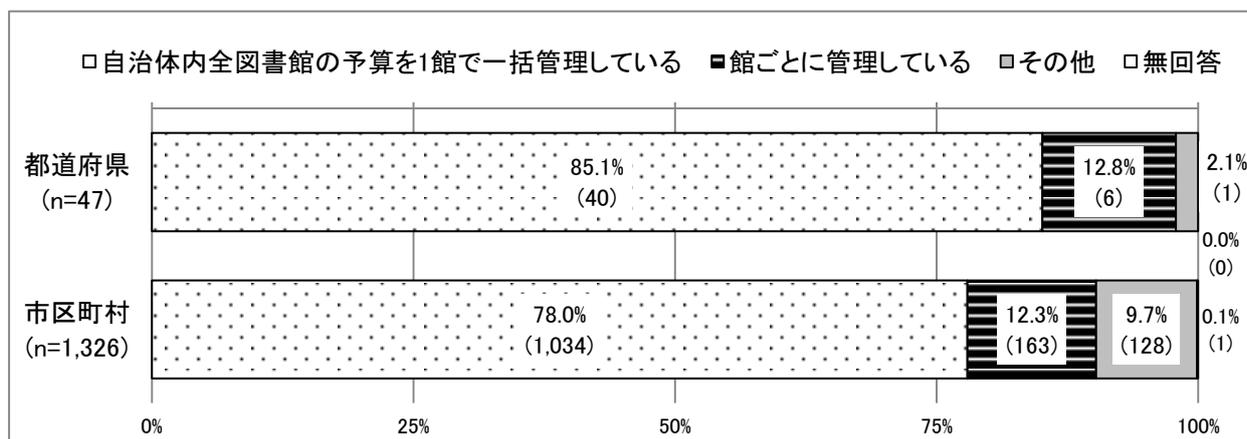


図 1.4 図書館の予算管理

イ 予算金額

次に、各自治体内図書館（一括管理の場合は全体の金額、館ごとの場合は中心館）の図書館費、資料費等の予算金額について尋ねた。資料費は、「図書費」「雑誌新聞費」「図書費・雑誌新聞費以外の資料費」の3項目に分け、図書費、雑誌新聞費等の内訳が不明な場合は空欄で可とした。

図書館費は、都道府県では「2億円以上」が36.2% (17館)、市区町村では「5,000万円未満」が57.6% (764館)で最も多かった。(図 1.5)

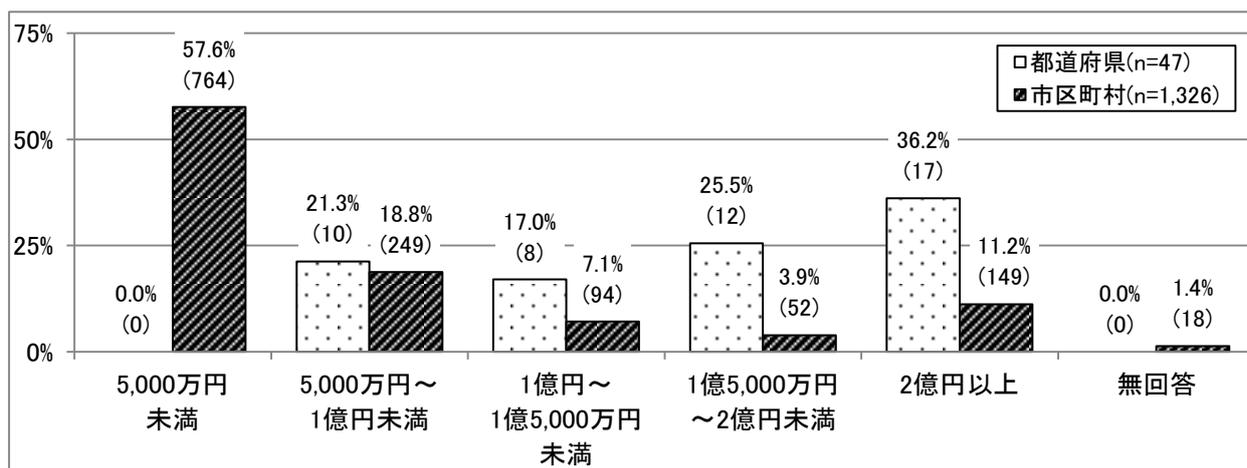


図 1.5 図書館費

次に、資料費は、都道府県では「3,000万円以上」が85.1%（40館）、市区町村は「500万円未満」が25.4%（337館）で最も多かった。（図 1.6）

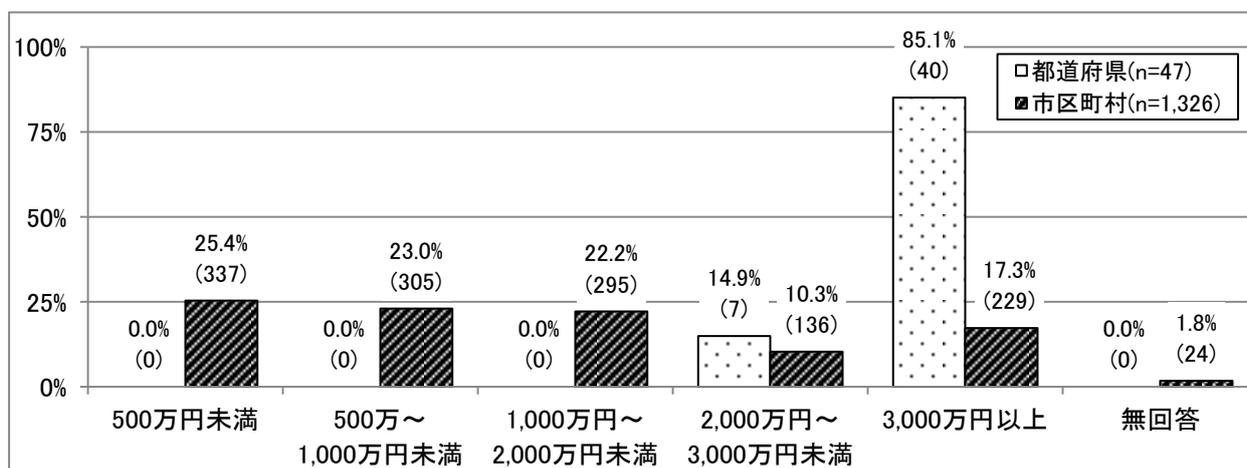


図 1.6 資料費

資料費のうち、図書費は、都道府県では「3,000万円以上」が63.8%（30館）、市区町村では「500万円未満」が33.5%（444館）で最も多かった。（図 1.7）

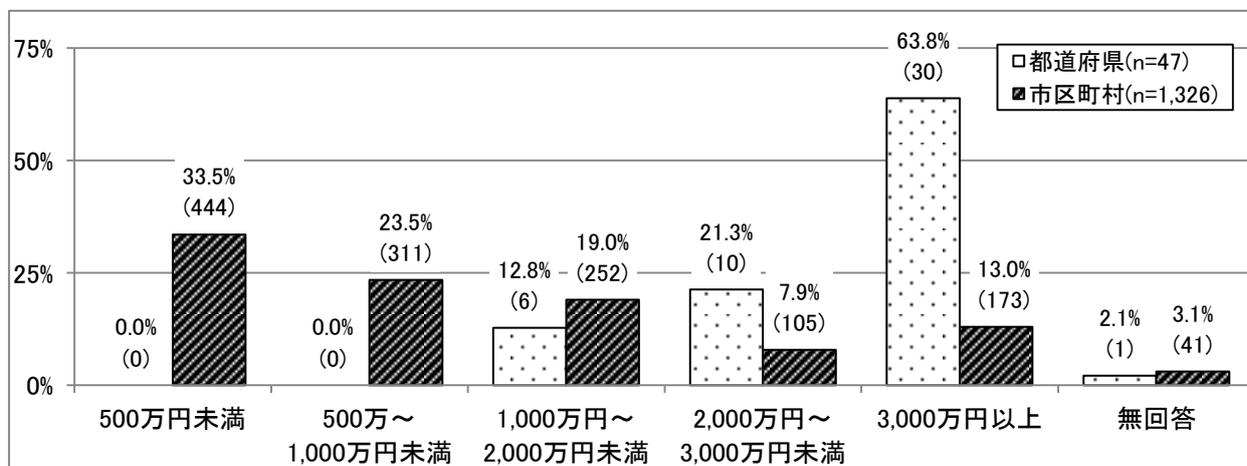


図 1.7 図書費

雑誌新聞費は、都道府県では「500万円～1,000万円未満」が40.4%（19館）、市区町村では「500万円未満」が78.4%（1,039館）で最も多かった。（図1.8）

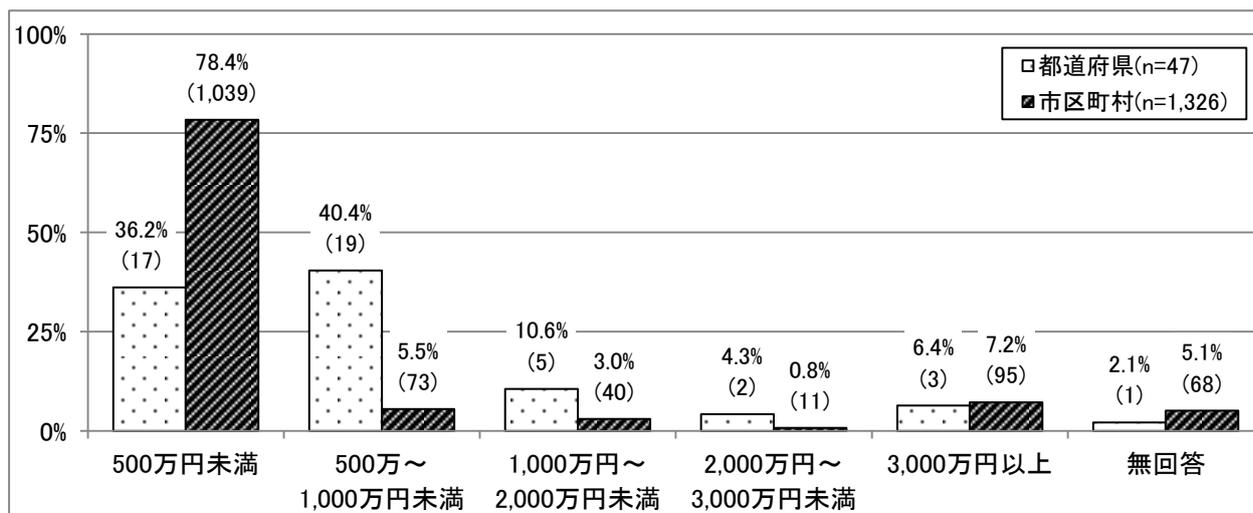


図 1.8 雑誌新聞費

図書費、雑誌新聞費以外の資料費については、都道府県、市区町村ともに「500万円未満」が最も多く、それぞれ57.4%（27館）、62.8%（833館）だった。（図1.9）

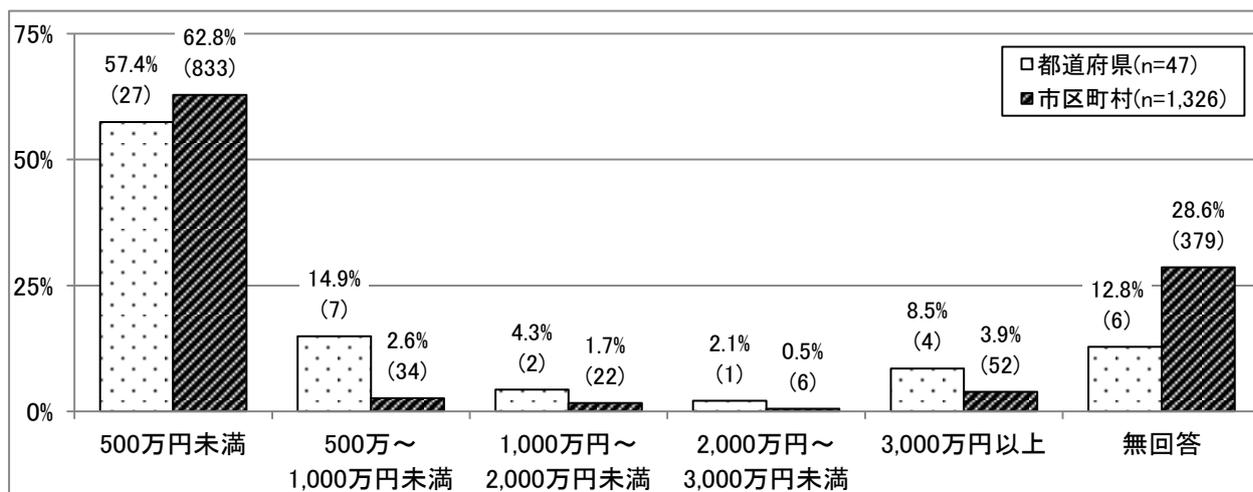


図 1.9 図書費、雑誌新聞費以外の資料費

ウ 資料費の予算金額の変化

資料費の予算金額が5年前の2013年度（平成25年度）から、どのように変化しているか尋ねた。（図1.10）

都道府県では「減少している」が38.3%（18館）で最も多く、次いで「増加している」が34.0%（16館）だった。

一方、市区町村では「ほぼ一定」が44.3%（588館）で最も多く、次いで「減少している」が32.9%（436館）だった。

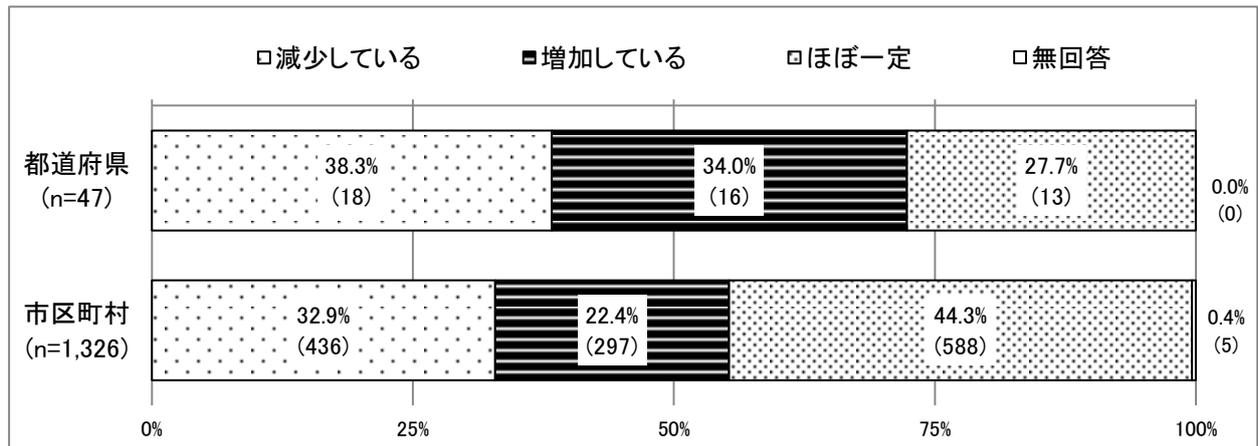


図 1.10 資料費の予算金額（5年前からの変化）

(4) 図書館の運営主体

自治体の図書館全体及び中心館の運営主体について尋ねた。

ア 図書館全体

図書館全体では、都道府県立図書館、市区町村立図書館ともに「全館、自治体職員のみ」が半数を超え、それぞれ 57.4%（27 館）、64.0%（849 館）だった。次いで、都道府県立図書館では「自治体職員中心（一部委託）」が 25.5%（12 館）、市区町村立図書館では「指定管理者中心」が 14.3%（190 館）だった。（図 1.11）

「その他」の回答を見ると、都道府県立図書館では、「施設管理のみ指定管理を導入」などが挙げられていた。市区町村立図書館では、多様な形態が挙げられていたが、「中央館は自治体職員中心、分館は指定管理者中心」、「自治体職員中心（一部委託、一部指定管理）」が複数の館から挙げられた。

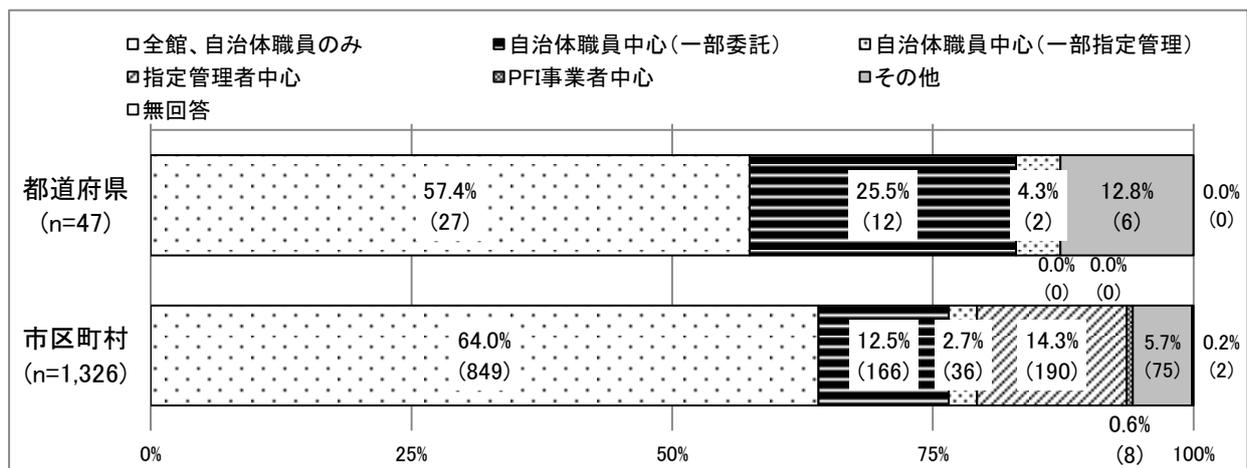


図 1.11 図書館全体の運営

イ 中心館

中心館では、都道府県立図書館、市区町村立図書館ともに「自治体職員のみ」が最も多く、それぞれ 57.4% (27 館)、67.7% (898 館) だった。次いで、都道府県立図書館では「自治体職員中心（一部委託）」が 27.7% (13 館)、市区町村立図書館では「指定管理者中心」が 13.8% (183 館) だった。「その他」は図書館全体とほぼ同様の回答だった。(図 1.12)

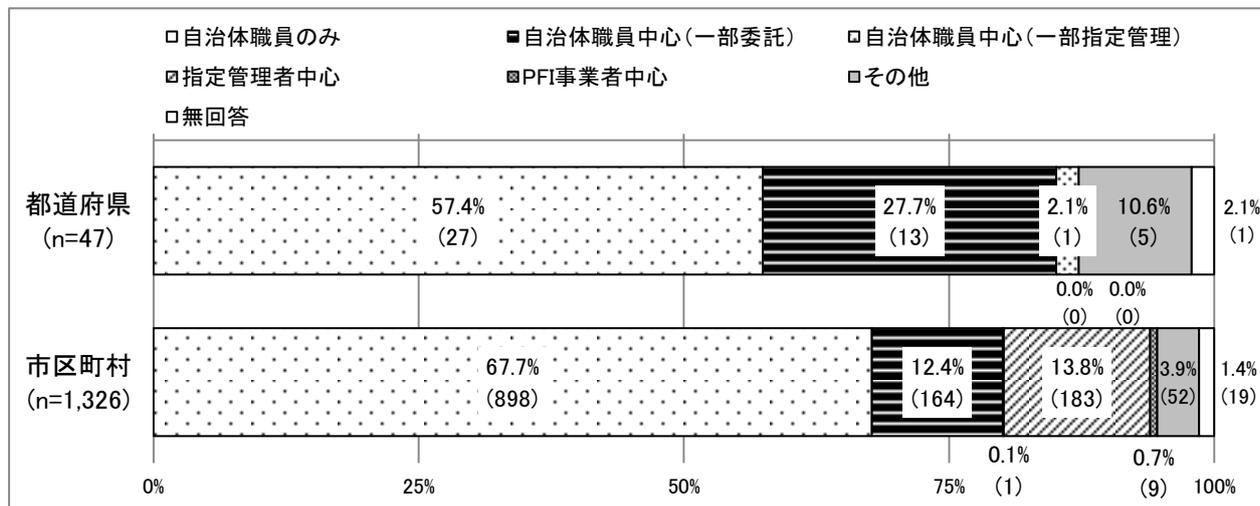


図 1.12 中心館の運営

(5) 職員数

自治体の図書館全体の職員数と中心館の職員数について、尋ねた。

ア 図書館全体

各都道府県立図書館の全職員数は、「30～50 人未満」の図書館が 57.4% (27 館) と最も多く、「50～100 人未満」が 29.8% (14 館) で続く。「20 人未満」の図書館は 0 館だった。

一方、各市区町村立図書館の全職員数は、「5～10 人未満」の図書館が 26.1% (346 館) と最も多く、次いで「10～15 人未満」が 17.2% (228 館) だった。(図 1.13)

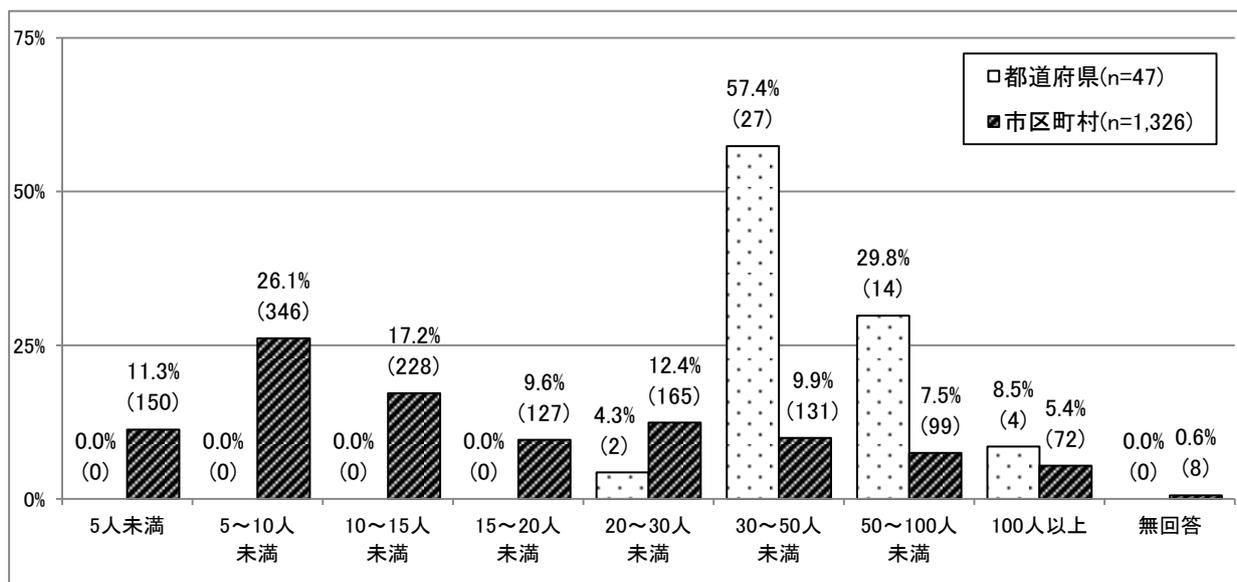


図 1.13 図書館全体の職員数

都道府県立図書館、市区町村立図書館それぞれの全職員数に占める職員種別の割合を見ると、両者で大きく傾向が異なっている。都道府県立図書館では、「正規職員」の割合が 55.7%と高く、次いで「非常勤・嘱託職員」が 25.6%だった。

一方、市区町村立図書館では、「委託・派遣職員（指定管理者職員含む）」の割合が 33.3%、「非常勤・嘱託職員」が 25.1%の順に高く、「正規職員」の割合は 23.8%だった。（図 1.14、1.15）

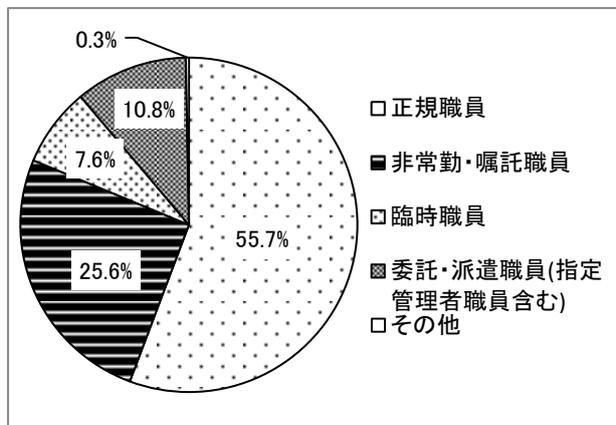


図 1.14 職員種別の割合（都道府県立）

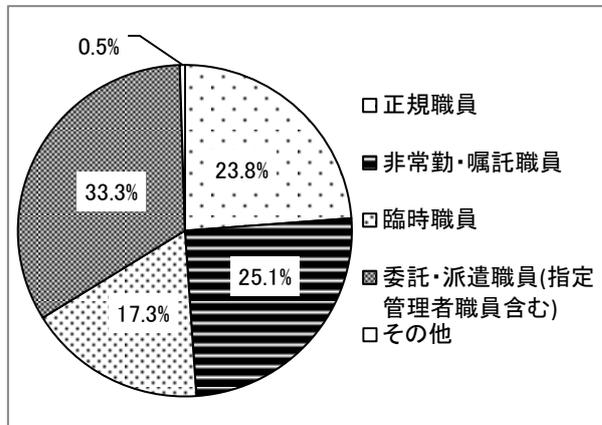


図 1.15 職員種別の割合（市区町村立）

イ 中心館

各都道府県立図書館中心館の職員数は、「30～50人未満」の図書館が 55.3%（26館）と最も多く、次いで「50～100人未満」が 27.7%（13館）だった。

一方、各市区町村立図書館中心館の職員数は、「5～10人未満」の図書館が 28.5%（378館）と最も多く、次いで「10～15人未満」が 16.7%（221館）だった。（図 1.16）

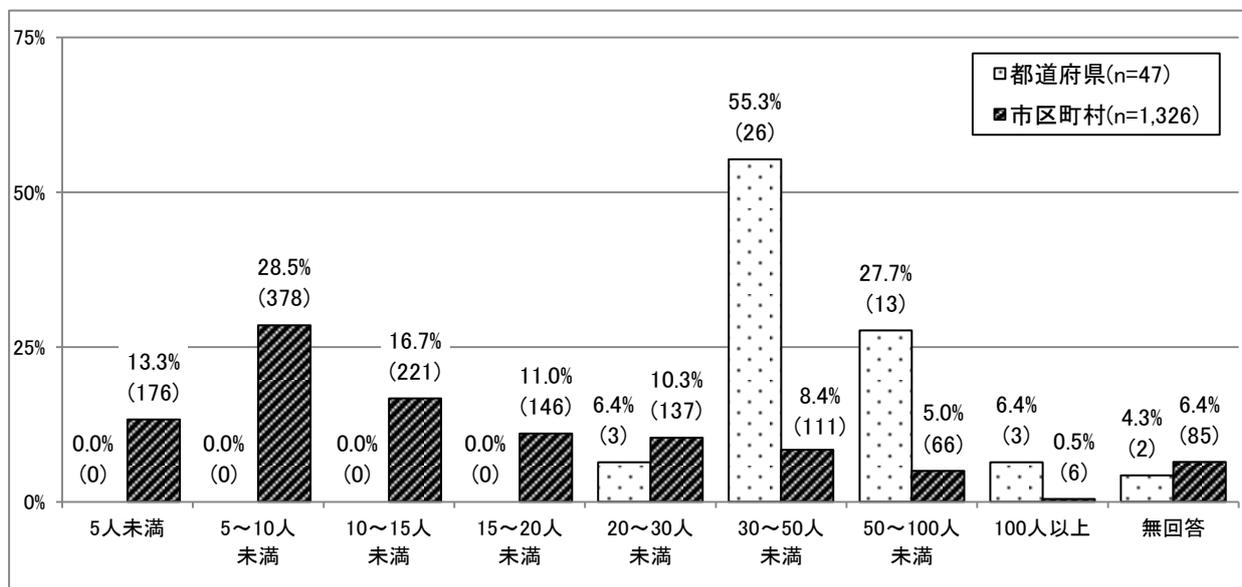


図 1.16 中心館の職員数

中心館の全職員数に占める職員種別の割合は、都道府県立図書館では「正規職員」が56.6%で最も高く、次いで「非常勤・嘱託職員」が25.6%であり、図書館全体とほぼ同様の割合を示している。

一方、市区町村立図書館では「正規職員」の割合が29.0%で最も高く、次いで「委託・派遣職員（指定管理者職員含む）」が25.9%だった。図書館全体とは割合が異なっていることがわかる。

(図 1.17、1.18)

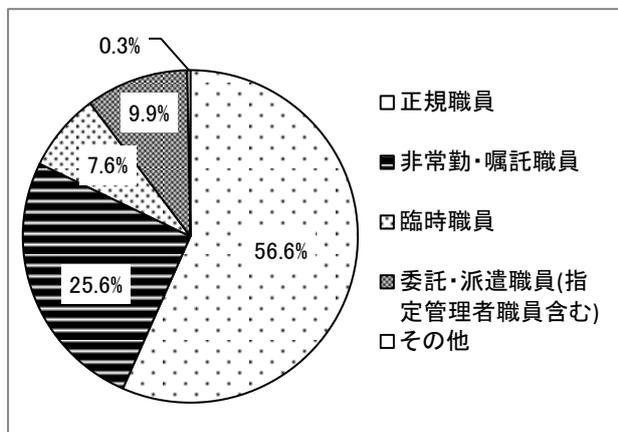


図 1.17 中心館 職員種別の割合（都道府県立）

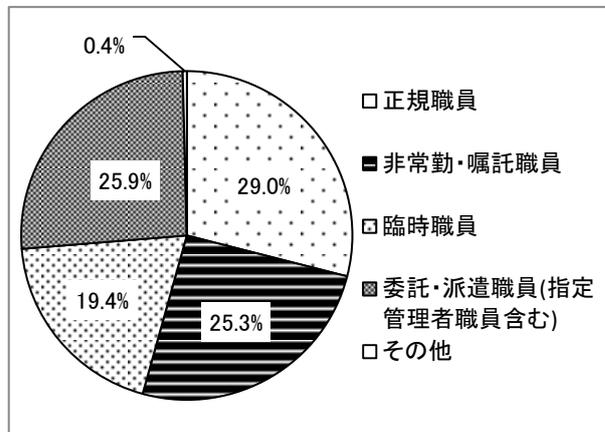


図 1.18 中心館 職員種別の割合（市区町村立）

2 中心館に関する基本情報

中心館に関する基本情報として、創設年、竣工年、施設の形態、併設・複合している施設の種別、延床面積、蔵書数について整理する。

以降の調査項目では、「資料の収集や保存等について中心的役割を担っている図書館」（中心館）について回答することとし、中心的役割を担う図書館がない場合や、1館のみの場合は「本館（中央図書館）」による回答とした。

(1) 資料の収集や保存等について中心的役割を担っている図書館

資料の収集や保存について中心的役割を担っている図書館があるという回答は、都道府県立図書館で78.7%（37館）、市区町村立図書館で66.6%（883館）だった。（図 1.19）

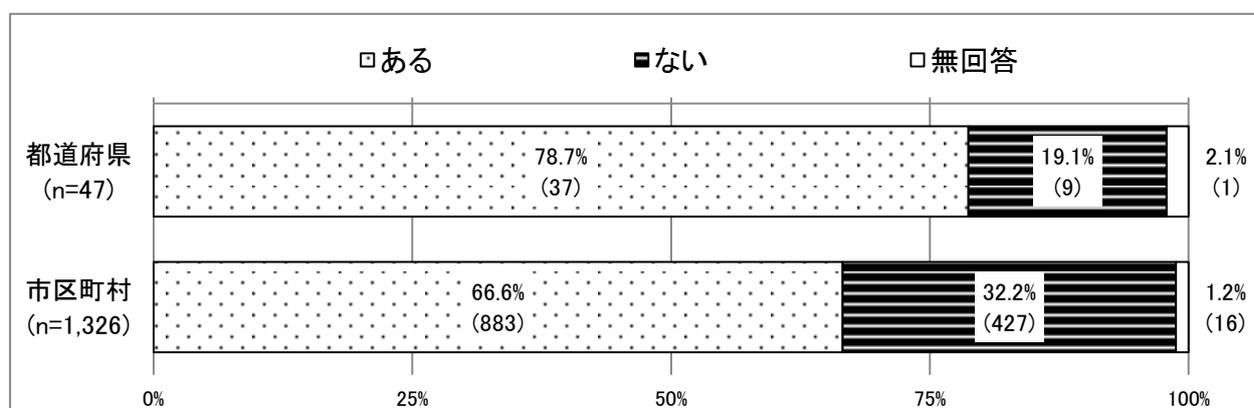


図 1.19 収集や保存等について中心的役割を担っている図書館

(2) 創設年、現施設の竣工年

中心館の創設年と、現施設の竣工年を尋ねた。

創設年は、都道府県立図書館では「1944年以前」が76.6%（36館）と最も多いのに対し、市区町村立図書館では「1990年代」が21.6%（286館）と多く、次いで「1980年代」が17.6%（234館）だった。（図1.20）

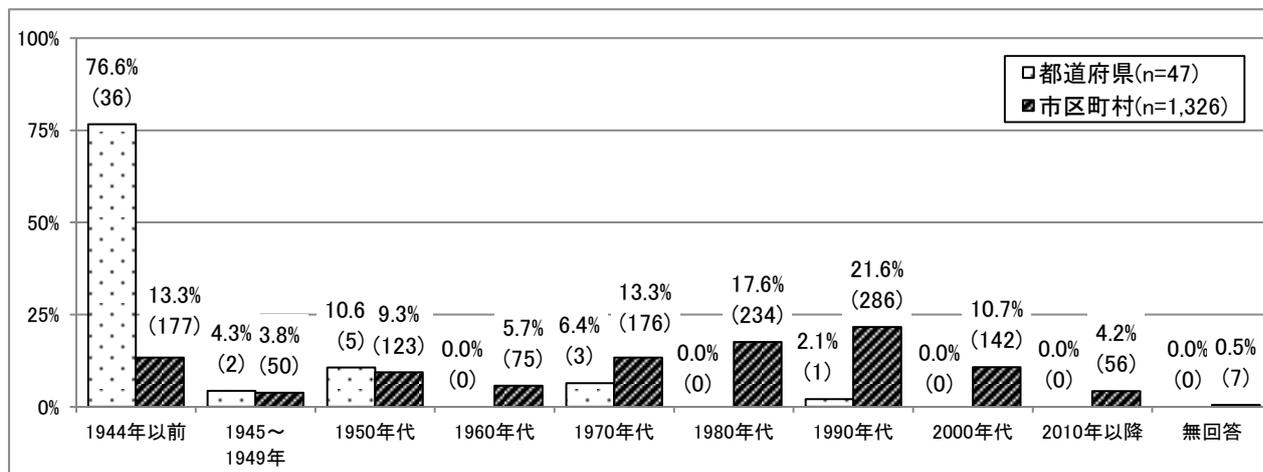


図 1.20 中心館の創設年

現施設の竣工年は、都道府県立図書館、市区町村立図書館ともに「1990年代」が最も多く、それぞれ27.7%（13館）、33.3%（442館）だった。都道府県立図書館では、次に「1970年代」、「1960年代」が多く、竣工から40年以上経過している図書館も多いことがわかる。（図1.21）

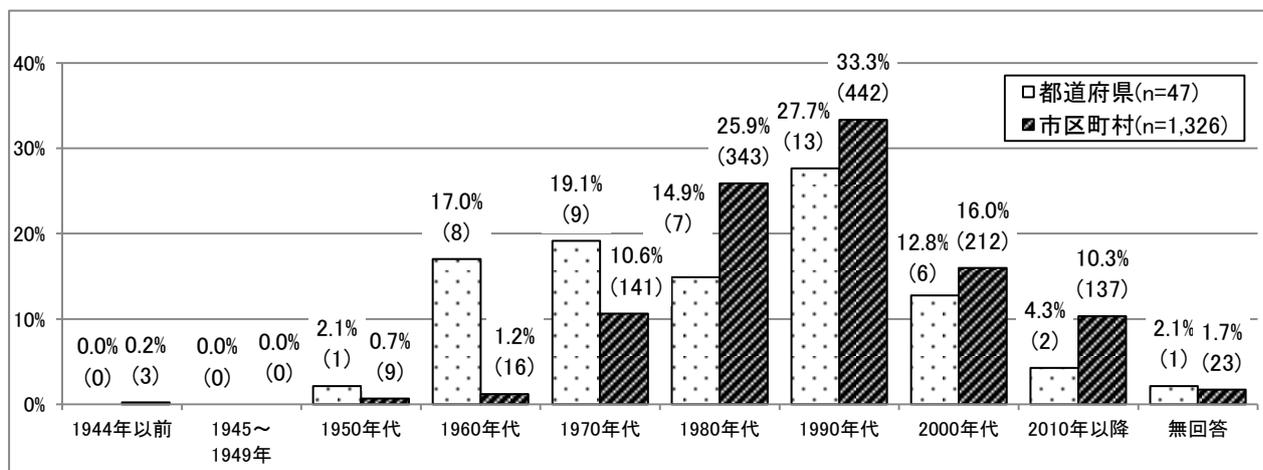


図 1.21 現施設の竣工年

(3) 施設

ア 施設の形態

施設の形態について、複合施設か独立施設かを尋ねた。

都道府県立図書館では61.7%（29館）が「独立施設」であるのに対し、市区町村立図書館では「複合施設」が半数を超え52.2%（692館）だった。（図1.22）

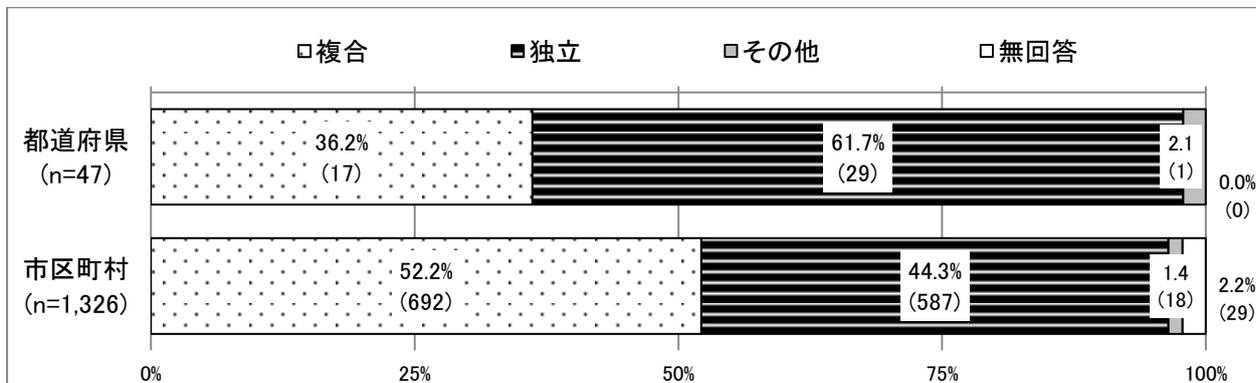


図 1.22 施設の形態

次に、施設の形態が「複合施設」と回答した図書館を対象に建物全体の階数を尋ねた。（図1.23）

都道府県立図書館では「4～5階」が52.9%（9館）と最も多く、市区町村立図書館では「3階以下」が75.9%（525館）と最も多かった。

また、複合施設の中で図書館が占有しているフロア数は、都道府県立では「4フロア」が47.0%（8館）で最も多いのに対し、市区町村立図書館では「1フロア」が50.3%（348館）と半数を超え、「2フロア」が30.5%（211館）と続く。市区町村立図書館で4フロア以上と回答した館は1割に満たなかった。（図1.24）

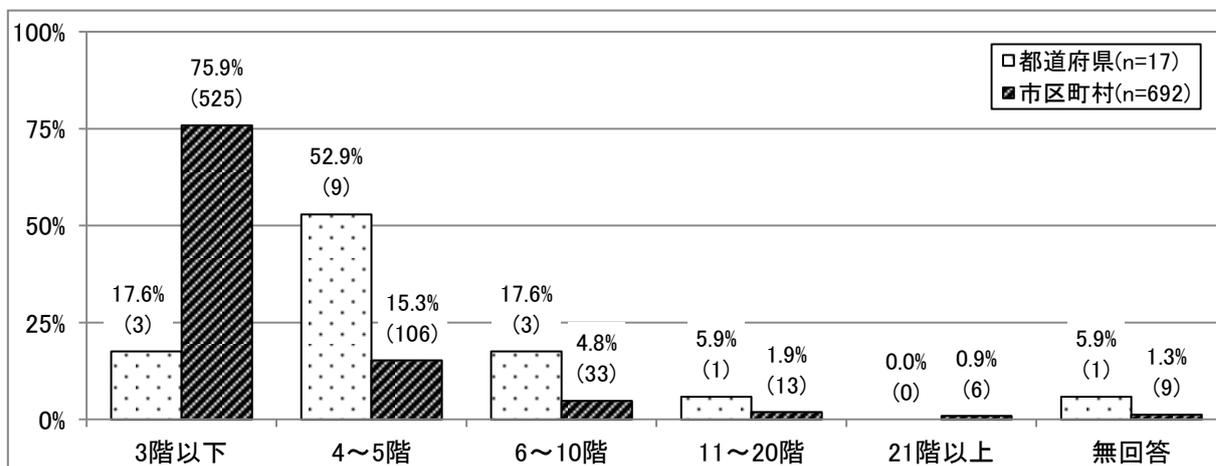


図 1.23 複合施設の建物全体の階数

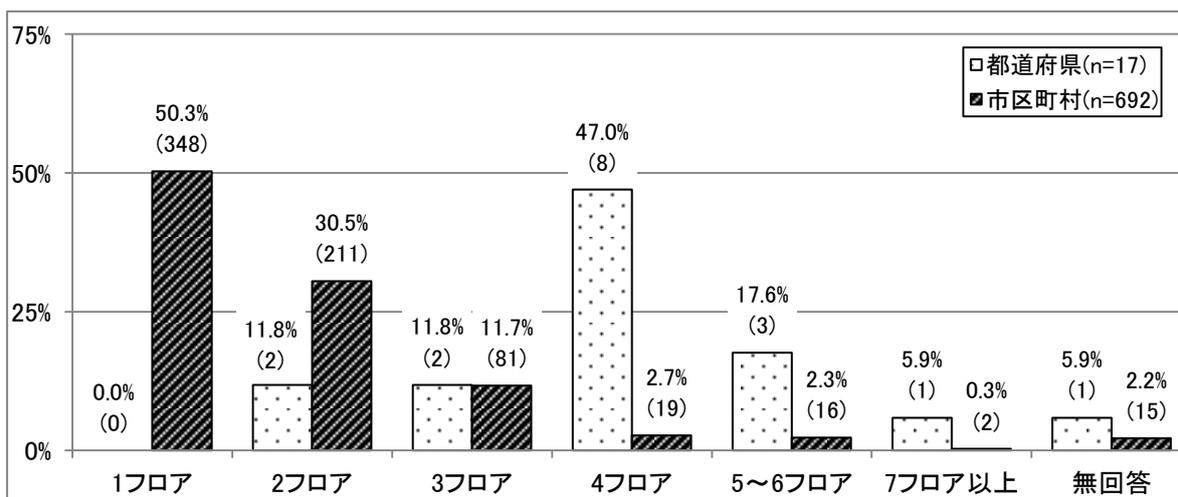


図 1.24 複合施設の場合の占有フロア数

イ 併設・複合している施設の種別

2 (3)アで「複合施設」と回答した図書館を対象に、併設・複合している施設の種別を尋ねた。都道府県立図書館、市区町村立図書館ともに「その他」の回答が最も多く、それぞれ 70.6% (12 館)、40.8% (282 館) だった。「その他」を除くと、都道府県立図書館では「博物館系」が 11.8% (2 館)、市区町村立図書館では「ホール系」が 28.2% (195 館) と多かった。(図 1.25)

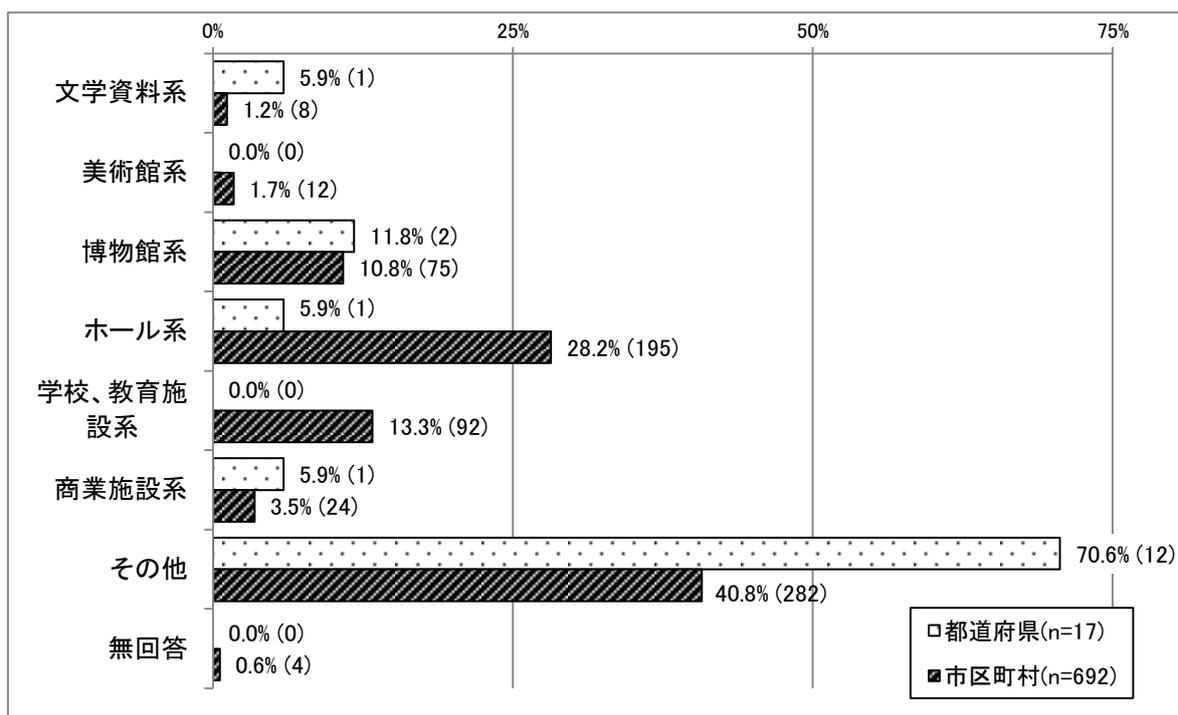


図 1.25 併設・複合している施設の種別 (複数回答可)

「その他」として、以下のように選択肢になかった多様な施設が挙げられたほか、回答内容からは、特定の施設だけでなく複数の施設と併設・複合している図書館も多いことがわかった。

(都道府県立図書館の例)

文書館／公文書館／生涯学習センター／文学資料館／歴史資料を扱う施設

(市区町村立図書館の例)

ホール+その他の施設／教育委員会事務局／郷土資料館／公民館
 子育て支援センター／市民活動施設、市民交流センター／市役所、区役所、役場
 児童館、児童センター／生涯学習センター／博物館系とホール系
 福祉関係施設／保健センター／歴史民俗資料館

ウ 施設の延床面積

施設の延床面積を尋ねた。(図 1.26)

都道府県立図書館、市区町村立図書館ともに「2,500㎡未満」が多く、それぞれ25.6% (12館)、57.5% (763館) だった。調査票の設問構成の関係で、「無回答」が多い結果となってしまった。

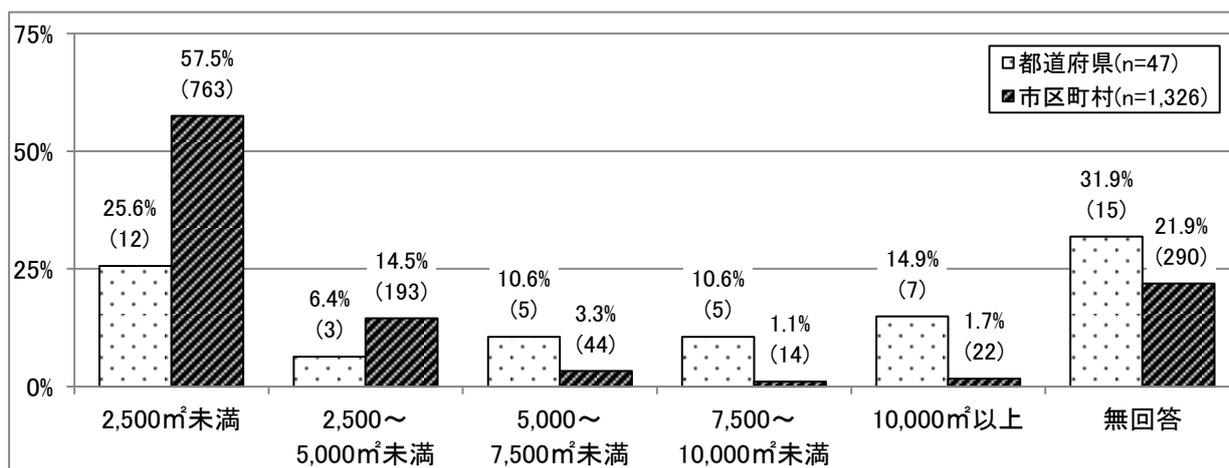


図 1.26 施設の延床面積

2 (3) アで「複合施設」と回答した図書館については、施設全体の延床面積も併せて尋ねた。(図 1.27)

都道府県立図書館では「10,000㎡以上」が70.6% (12館) を占めた。

市区町村立図書館では「2,500～5,000㎡未満」が29.8% (206館)、「2,500㎡未満」が29.0% (201館) の順に多かったが、複合施設全体の延床面積が「10,000㎡以上」という回答も15.3% (106館) あった。

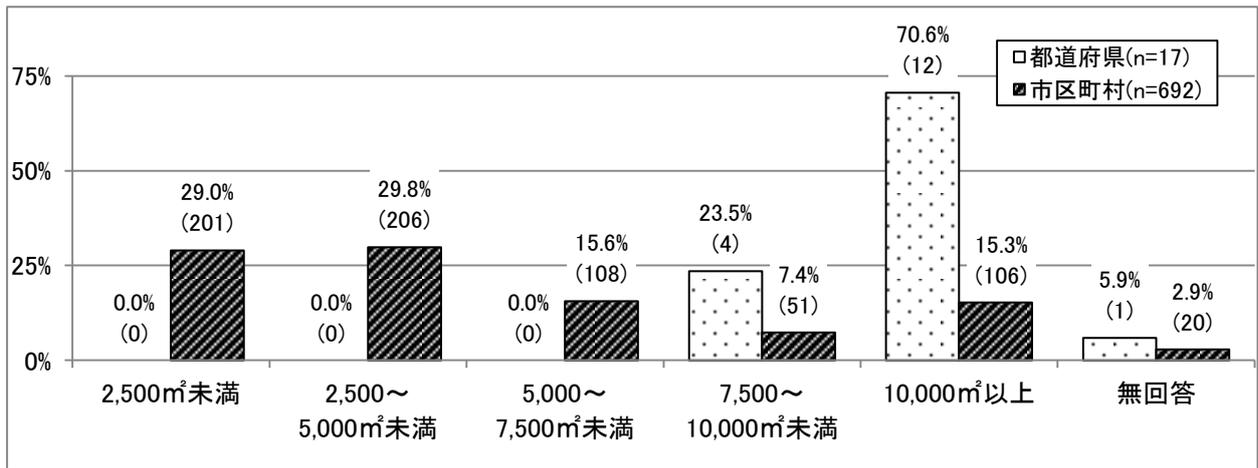


図 1.27 複合施設全体の延床面積

(4) 蔵書数

中心館の蔵書数について、図書（冊）、雑誌（タイトル数）、新聞（タイトル数）に分けて尋ねた。

ア 図書

都道府県立図書館では、「75万～100万冊未満」が53.2%（25館）と最も多く、次いで「100万冊以上」が29.8%（14館）だった。

一方、市区町村立図書館では「10万冊未満」が34.4%（456館）、「10万～20万冊未満」が32.1%（425館）とほぼ同じ割合で、次いで「20万～30万冊未満」が14.4%（191館）だった。（図 1.28）

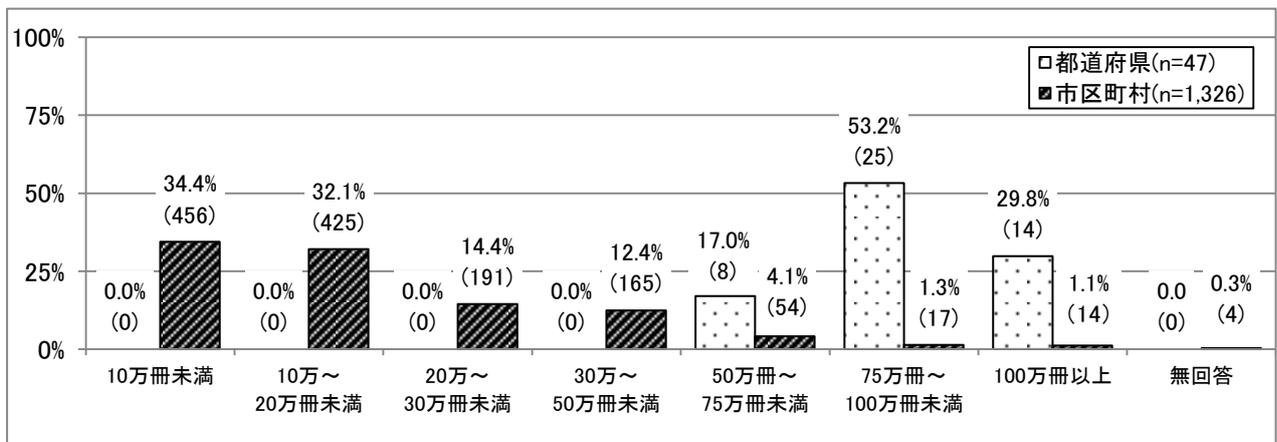


図 1.28 蔵書数（図書）

イ 雑誌

都道府県立図書館では、「2,000～5,000 タイトル未満」が 29.8% (14 館) と最も多く、次いで「1,000～2,000 タイトル未満」と「5,000 タイトル以上」がそれぞれ 21.3% (10 館) だった。

市区町村立図書館では、「100 タイトル未満」が 56.3% (747 館) と半数を超え、「100～250 タイトル未満」が 31.5% (418 館) と続いた。(図 1.29)

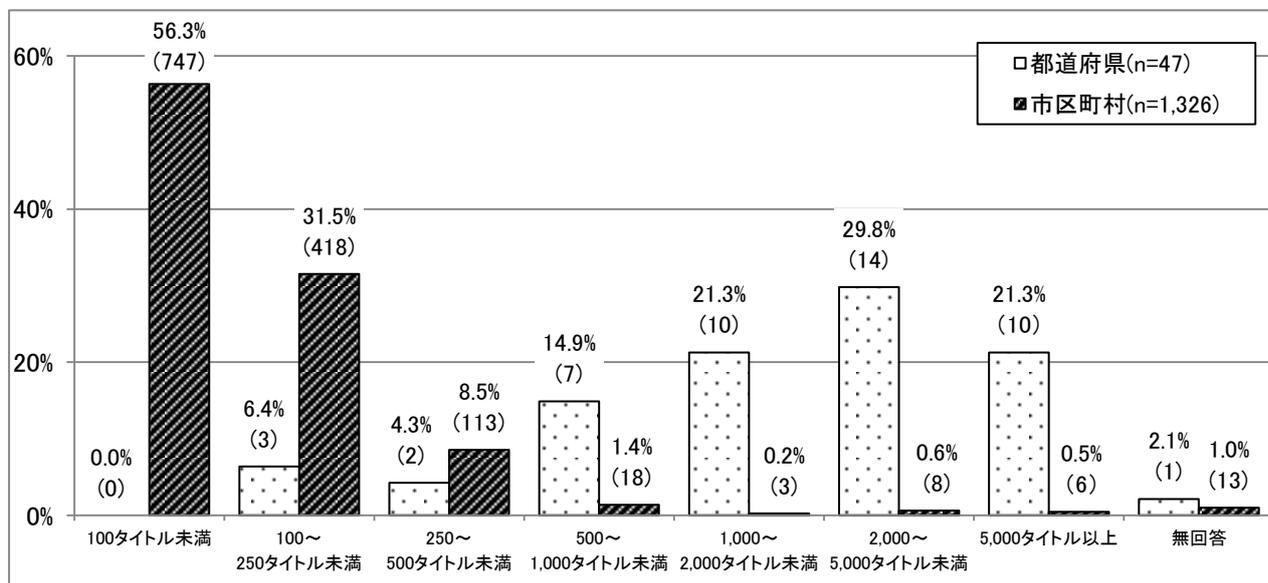


図 1.29 蔵書数 (雑誌)

ウ 新聞

都道府県立図書館では、「50～100 タイトル未満」が 42.6% (20 館) と最も多く、次いで「200 タイトル以上」が 17.0% (8 館) だった。

市区町村立図書館では、「10 タイトル未満」が 48.6% (645 館) と最も多く、次いで「10～20 タイトル」が 33.3% (442 館) だった。(図 1.30)

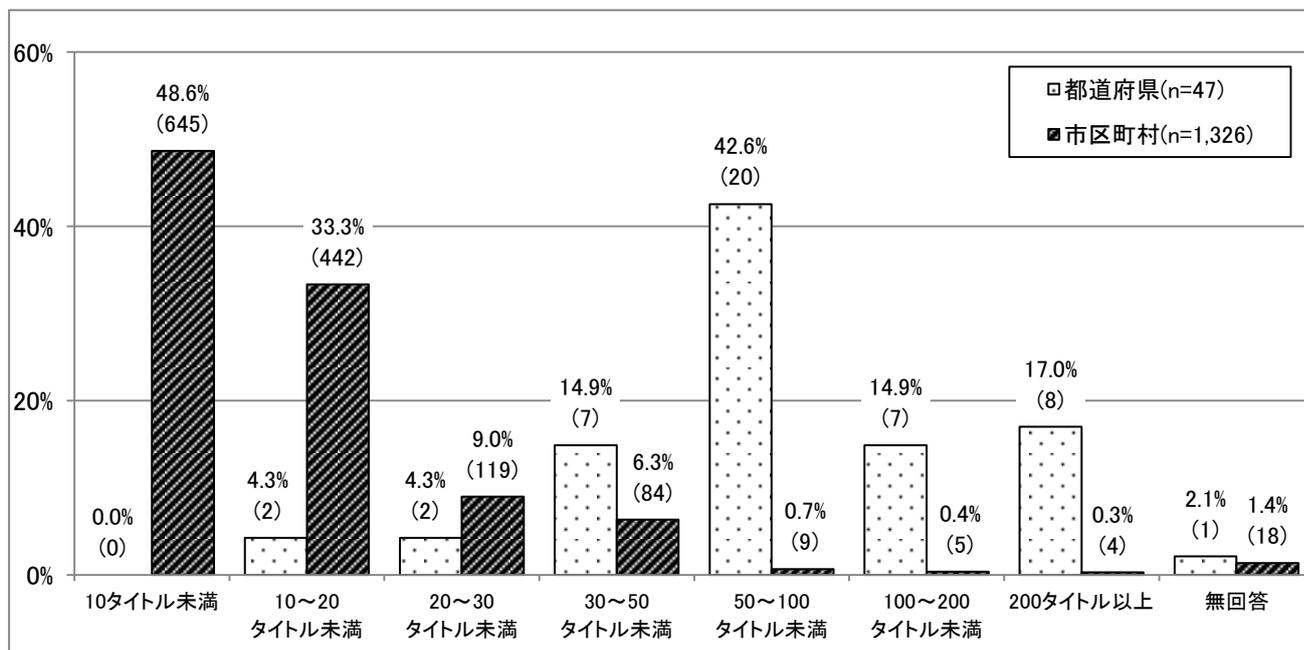


図 1.30 蔵書数 (新聞)